

クリオプレシピテート作製プロトコール変更による品質の検討

◎増田 順治¹⁾、北尾 時輝¹⁾、松本 文乃¹⁾、田中 由美子¹⁾
焼津市立総合病院¹⁾

【はじめに】

クリオプレシピテート（以下クリオ）は、新鮮凍結血漿（以下 FFP-LR）を 3～6℃でゆっくり解凍することにより析出する白色の沈殿物である。析出したクリオを遠心沈殿させ、上清を除去して作製したものをクリオ製剤とする。当院では院内血液製剤使用適正委員会および、倫理委員会の承認を得て 2012 年 4 月より運用を開始し、年間約 50 本作製している。今回、作製プロトコールの変更によりクリオ品質向上における若干の知見を得たので報告する。

【調整方法】

当院では以下の手順でクリオ製剤を作製している。
FFP-LR (-30℃) ⇒解凍開始 (4℃ 約 18～20 時間) ⇒ラック (1 時間 沈降) ⇒再凍結 (-80℃) ⇒再解凍 (4℃ 18～20 時間) ⇒遠心 (1200G 5℃ 20 分) ⇒上清除去⇒再凍結 (-80℃) ⇒保管 (-30℃)
日本輸血・細胞治療学会より安全性・品質向上を目的とし

て「クリオプレシピテート作製プロトコール」が作成されている。作製プロトコールの標準化、クリオ製剤の施設間差が小さくなっていくことが期待される。

【検討方法】

従来、行っている作製プロトコールを基準とし、解凍開始温度、遠心条件、解凍時の新鮮凍結血漿の状態を変化させ、回収率を比較する。回収率は以下の式より求める。

$$\text{回収率(\%)} = \frac{\text{FFP-LR 中の Fib 量} - \text{除去した上清中の Fib 量}}{\text{FFP-LR 中の Fib 量}}$$

【考察】

解凍開始温度を-30℃より-80℃に変更することにより、ゆっくり時間をかけて解凍することができ、完全溶解のポイントがわかりやすくなった。2 回法で作製しているが、解凍毎に遠心を行った方がクリオをより多く沈殿され则认为られた。

連絡先 焼津市立総合病院-054-623-3111（内線 2269）